



学校だより

後川

No. 21

令和3年 1月15日(金)発行
四万十市立後川中学校

さあ まとめの3学期～大きくジャンプ～

令和3年(2021年)が始まって2週間が過ぎました。年末や年明けには、久々の大雪に驚かされました。昨年からのコロナウイルスの世界的な感染拡大、オリンピックの延期など、これまで経験したことがないことが次々と起こっています。今年もこれから、予期せぬことが私たちの生活に起こるかもしれません。どんなことがあっても、みんなで支え合い、知恵を出し合い乗り越えていきましょう。そのためには、心身ともに健康に過ごすことが大切です。『早寝・早起き・朝ごはん』そして手洗い・うがい・規則正しい生活を心がけ、元気に明るく毎日を過ごしましょう。

1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と時間の経つ早さにたとえられます。1日は24時間、誰にも平等に与えられています。無駄にせず、自分自身の成長に使っていきましょう。また、今学期は各学年のまとめの時期です、日々の学習した内容をしっかり自分のものとし、次のステップへとつなげていきましょう。

そして、執行部や専門部も新しいメンバーでの活動になりました。後川中学校の一員として、私たちの学校をもっと楽しくよい学校にするためにはどうすればいいのかを具体的に考えてほしいと思っています。教職員一同、生徒の皆さんのアイデアを聞き、実現するために全力で応援していきます。新しい年の初め、みんながまっさらな気持ちで夢や希望を描き、一緒に実現させていきましょう。

この1年が後川中学校の皆さん、保護者の皆様にとってよいことがたくさんある輝かしい1年となりますようお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

人間はなぜ、言葉を使うようになったのでしょうか。情報を伝えるため？それだけではないはずです。私たちが普段使っている言葉は、ほとんどが生活している現実の場面でのものです。詩の言葉はよかれ悪しかれ現実から少し離れています。遠いことからを想像したり、見慣れたものの中にこそ、思いがけない新しさを見つけたりできます。時間があるときや悩んでいるとき、嬉しいときなど好きな詩をよんでみませんか。今回は中原 中也(なかはら ちゅうや)の「月夜の浜辺」を紹介します。

月夜の浜辺

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打ち際に、落ちていた。

それを拾って、役立てようと
僕は思ったわけでもないが
なぜだかそれを捨てるに忍びず
僕はそれを、袂たもとに入れた。

月夜の晩に、ボタンが一つ。
波打ち際に、落ちていた。

それを拾って、役立てようと
僕は思ったわけでもないが

月ほに向かってそれは抛ほうれず
浪なみに向かってそれは抛ほうれず
僕はそれを、袂たもとに入れた。

月夜の晩に、拾ったボタンは
指先に沁しみみ、心に沁しみみた。

月夜の晩に、拾ったボタンは
どうしてそれが、捨てられようか？